

# 食～食農教育と文化交流～

## 食農教育を大切にして

田んぼの学校や畑の学校の作物を活用して、地域伝統の郷土料理や後で触れる新しい郷土料理の活動に取り組んでいます。作物を育て、それを調理し、みなでおいしく食べるという基本的な人間の営みを命の関わりとともに学ぶプログラムです。また、角川は山菜やキノコなどの里山の恵みも重要です。里山の文化と農業文化を融合したできるだけ化学調味料などに頼らない自然な食のスタイルを追求しようとしています。

### 1、季節の郷土料理教室

春の山菜料理、初夏の笹巻きづくり、夏のしそ巻きづくり、夏野菜の郷土料理、秋のカブ漬けづくり、キノコ料理、冬の保存食を活用した郷土料理、納豆汁、またぎが猟でえた野うさぎを利用したウサギ汁やハンバーグ、豆腐、みそづくり、納豆づくりなどなど、、、とにかく季節毎の郷土料理が数多く存在しています。

山菜料理だけでも100種類ほど数え上げることができます。季節毎、地域で日常的にされている食文化の営みが学習プログラムとなっています。



## 2、新しい郷土料理として～中国餃子の取り組み～

海外から来た女性も多く生活しています。中国の東北部からいらしたお嫁さんは餃子づくりが得意。子ども達にも人気があります。小麦粉を練って皮づくりからはじめ、具には中国産の調味料で独特の味付けです。今、地元の野菜を使って地域の中国餃子として新たな郷土料理として生まれ変わろうとしています。素材を丁寧に加工して包み込み、沸騰した水で茹で上げる水餃子は、料理の手間とタイミングの絶妙さがあります。子ども達もおいしい餃子は大好き。楽しく作り方にもチャレンジしています。



## 3、楽しい試食会

料理の楽しさは、やはり皆で食べるということではないでしょうか？

苦労して育てた作物、おいしく調理した料理を前に、様々語り合いながら楽しく食べるのが角川の流儀。豊かなコミュニケーションとバランスの良い食文化を創りだしていきましょう。



## 4、山・里・川・海をつなぐ食文化交流と食育活動

山・里・川・海のおいしい素材と、それぞれの地域の料理技術を持ち寄って、交流会。それぞれの地域の暮らしの知恵と技術と違いがとても面白い。

食べることで暮らしの楽しさを実感する食育活動を展開しています。



# ものづくり

～身近なものや自然素材を生かして～



身近な自然素材をうまく利用して生活や農業に使う道具や工芸品を作るのが、角川の里のもの作りの特徴です。

素朴な味わいの作品は、指や足を使って編み上げたり、刃物を使って加工したりと、様々な加工技術が必要です。

地元の工匠達の指導のもと、暮らしに役立つすばらしい作品を作っています。

## 1、わら細工づくり

収穫がコンバインに頼るようになった現在では、米づくりで発生するわらは、貴重な存在となってしまいました。わらを利活用した工芸品や道具は角川の里にも数多く伝わっています。特種な技術はまさに伝統の生活の知恵と言えます。



## 2、蔓細工づくり

里山の恵みは実だけではなく、蔓も貴重です。アケビの蔓や藤の蔓を編み上げてかごや帽子を作ります。まずは山から材料集めてくるところからはじめます。

また、冬には欠かせないカンジキも地元の里山のトリキという木を活用して作ったものです。曲げたり切ったり自然に加工していくのには特種な技術も必要です。



## 3、里の先生の作品



## 4、しな織の里

関川では、古代織の一つ「しな織」の伝統技術が脈々と受け継がれています。森の自然素材を使った織物の技術を体験しました。しな織を育んだ戸数40戸ほどの関川の里の生活文化も大きな学習活動になりました。



# 民話

雪深い角川の里には数多くの民話や昔語り  
が伝わっています。

語り部の皆さんの話をアラレコなどの  
伝統菓子を食べながら聞きましょう。  
日々の生活の中で考えさせられる  
ようなお話、笑い話、悲しいお話  
など様々な話の中に里の人々の  
心が息づいているのが感じられる  
ことでしょう。



メモ

---

---

---

---

---

---

---

---



# 海と海辺の森の体験活動

## 1、三瀬の豊かな海

三瀬の海は周辺の山々からの清らかな水をわずか数百メートルの浜辺に集めて注ぐ湾に位置します。

ここには日本海の魚介類が多く集まってきます。夜は夜光虫の観察会を行いました。暗闇の海の中で光る光景は何とも言えない美しさを醸し出しています。

釣り、貝殻拾い、浜辺の散策、そして静かで美しい海を眺める、、など様々な体験活動の中で、子ども達と海の環境が元気になる体験プログラムがスタートしました。



## 2、海辺の森の再生活動

三瀬海岸に面した葉山はかつては風光明媚な松林に覆われていましたが、近年の松枯れで荒れた山となっています。今、海を背景にしながらの海辺の森再生にむけた植林活動を始めています。



### 3、海辺の源流の森探検

三瀬の海に注ぐ源流の一つである水無川。ここは海辺からわずか4kmあまりの地点が源流となっています。海から山に向かって探検をしました。様々な生き物達が河口から源流にかけて暮らしています。生き物の営みとそのつながりを肌で実感しながら学ぶことができました。



箱眼鏡でのぞきながら、玉網でガシャガシャ。いろんな生き物達が見つかります。

子ども達だけではなく、地元の大人もびっくり。自分たちの暮らしの近くに様々な生き物の営みがあったんですね。

サワガニやサンショウウオが発見されました。いずれもきれいな水でしか生息できない生き物です。

三瀬の海はこうした豊かできれいな水、それを育む周辺の森によって支えられているのです。そんな三瀬の森と水を今も、そしてこれからも大切にしていきたい、そんな声が子ども達からきかれました。



# ホームステイ

## 角川のホームステイとは

里での学習や地域作りは、地元住民だけではなく、外部者とも一緒に行えるもの。地元では、地域の活動にあらたな風を吹き込んでかかわってくれる外部参入者のことを親しみを込めて「ヨソモン」と呼びます。

こうした考えから、親戚の延長線上で外部者を受け入れようと角川地区では、里親委員会が発足し、農家ホームステイが始まりました。普通の地域の農家に宿泊するので、別段もてなしもしませんし、素のまんまですが、より深く里の暮らしのありようを体験し理解することが出来るでしょう。

里親はいずれも話好き。いろいろとお話を聞いてコミュニケーションをとってみてください。きっと新たな驚きや発見があると思います。





# ふるさと学習カリキュラムづくり ～地元学のすすめ～

地元の住民と外部者(ヨソモン)は、目線が違うことから里でのヨソモンの驚きが、地元住民にとっては、日常の暮らしにおける新たな再発見につながる可能性があります。

こうしたコミュニケーションを積み上げてワークショップを行い、新たな学習や里づくりに活かしていこうというのが、角川の里の「地元学」(Local Study Workshop)です。



## 地元学のポイント

- 各集落、すべての要素を調べてしまう。
- 話だけ聞いてもわかりにくいので、集落の案内人と一緒に歩いて、「聞いて、見て、実際にやってみて」調べる。
- メモや写真をマメにとる。(※後でまとめるとき足りないことが多いので、必要だと思ったものは、多すぎると思うぐらいととってちょうどいいかも)
- 何よりも地元住民とのコミュニケーションを大切に。聞き書きは無理にまとめないで、地元の方々の語り口調を活かしてまとめてみよう。

# 地元学実施の流れ

## 1、基本的にすること

地域の人とよそモンと一緒に集落を歩いて、「あるもの探し」をする。



## 2、地元学調査(調査方法はいたって簡単)

ステップ1:じいちゃん、ばあちゃん、その他集落の人、よそものが集まる。

ステップ2:集落や集落の周辺地域をいっしょにまわり、よそものが面白そうだと思うことやものを集落の人に質問し、それを写真に撮り、集落の方の説明を資源カードに記入していく。



ステップ3:調査からかえってきたら、その結果をカードをもとに発表。(→地域内コミュニケーションの活性化と情報の共有化)

ステップ4:調査からかえってきたら、その資源カードをもとに地図に書き込んでいく。また資源カードを整理し、一覧表を作ります。



地域環境マップと生活文化大百科の出来上がり。  
これを元に今後の地域の夢を語り合う。



## ◇角川里の自然環境学校について

地域子ども達への環境教育活動を行っていた市民団体「南部里地探検隊」を前身にする。2003年8月、組織体制を整え「角川里の自然環境学校」として設立された。農山村の自然や文化を次世代へ伝えるとともに、本当に豊かに生きるための智恵や技術を教えつつ、子ども達と一緒に新しい「ふるさと」づくりを進めている。山、川、食、農、ものづくり、民話など多彩なプログラムを実施しており、里の住民による地域運営学校として、教育委員会などのサポートを受けながら行政と一体となって、継続的な自然体験学習活動を展開している。「実際に生活し子ども達と共に活動する里地里山博物館」(守山弘東京農業大学客員教授)など内外から高い評価を受けている。

2004年「里地里山活動30」(読売新聞主催・環境省共催)選定、2005年「田園自然再生コンクール」(農林水産省・環境省主催)入賞、同年「エコキッズやまがた大賞」(山形県環境アセスメント協会)受賞。2006年6月山形県環境学習支援団体認定。2007年2月食育活動東北農政局長賞受賞、4月「みどりの日」環境活動功労者環境大臣表彰。また「森、里、川、海とつながる自然再生」(中央法規出版2005年)に全国の自然再生13事例の1つとして取り上げられている。

07年4月研究教育調査部門が独立。10月には「エコ杯やまがた」入賞。更なる活動の幅広い展開を目指して12月NPO法人里の自然文化共育研究所が設立された。

**2008年3月発行**

**角川里の自然環境学校**

**特定非営利活動法人 里の自然文化共育研究所**

山形県最上郡戸沢村大字角川481-1

戸沢村農村環境改善センター1F (2F 研究所)

電話／ファックス:0233-73-8051

メール:sato-school@orion.ocn.ne.jp

ホームページ:<http://www3.ocn.ne.jp/~satoweb/>